「衣服設計と人体に係わる計測技術」特集

現代女性のための新しい美の指標
「ゴールデンカノン」

波多野 文

いつの時代でも女性たちが、より美しくありたいと願う気持ちは、変わりません。時代に合わせた身体の美の指標、それを私たちワコールは、これまでも提案し続けてきました。1965年、日本で初めての美の指標ゴールデンプロポーション、1979年、20代、30代、40代、年齢に合わせた美の指標ビューティフルプロポーション、そして今、女性の身体は大きく変化しました。背が高くなり、スリムになり、足も長く、バストボリュームも大きくなった女性たちにふさわしい美の指標が求められています。

ワコール人間科学研究所では、3万人のデータベースをもとに、新たに1,115人の女性のボディサイズを計測しました。計測にご協力いただいたモニターの方々は、太った人、痩せた人、背の高い人、低い人、バストの大きい人、小さい人など、顔が一人一人違うように、身体も違います。この中から、健康的で美しいと感じる女性たちを研究所の女性研究員が選びました。研究で培った知識を土台にして、計測の場面で選び出していきました。選び出された美しい身体的女性たちは、他の女性と比べてどこが違うのでしょうか。また、共通する特徴は何なのでしょうか。それを明らかにするために三次元計測装置を使って立体的に見てみました。

ゴールデンカノンは6つのバランスから成り立つ

その結果、美しい身体には6つの共通点があることがわかりました。この共通点が新しい美の指標ゴールデンカノンです。それでは、ゴールデンカノンの6つのポイントをひとつひとつご紹介しましょう。

1. BWHの周径バランス(図1)

第1のポイントは、バスト、ウエスト、ヒップの周径バランスです。女性のプロポーションといえば、バスト、ウエスト、ヒップ。そこでそれぞれの周径バランスを見ます。

ウエストを中心にしてウエストに対するバストの割合と、ヒップに対する割合で体型を分類してみると、それぞれの体型特徴がはっきり見えてきます。

バストが優勢なV型、ヒップが優勢なA型、ウエストが

図1 BWHの周径バランス

New Figures for Modern Women—Golden Canon—

著者紹介 FUMI HATANO

所属ワコール 人間科学研究所

著者は被服構成学をご専門とされ、現在は現代女性の体型特徴のご研究を担当されている。本稿ではこの研究成果を基に開発された、「現代女性のための新しい美の指標」についてご解説いただいた。著者は、ほとんどの女性は自分の美しさに気づいていない、ことを指摘しておられる。

くびれてメリハリのあるX型、ストレートなI型、以上の4タイプに分類できます。このグラフに多くの女性をプロットしてみると、美しい女性はX型方向に集中していることがわかります。

この結果を独自の計算式に当てはめ、美しい身体のゾーンを割り出しました。このゾーンに入っている女性たちを見ると、2つのことがわかります。ひとつは、ウエストサイズは50cm台から70cmまで幅広く存在していることです。一般に、ウエストが60cm以上あると美しくないと思いこんでいる女性が多いのですが、決してそうではなく、大切なのは、バストやヒップとのバランスです。ふたつ目は、美しい身体の女性は、X型に多く存在しますが、その中でも、バスト優勢のV型や、ヒップ優勢のA型が存在しています。つまり、AAカップからFカップまで、バストの大きさに関わらず美しい身体は存在します。

2. トルソ・バランス(図2)

第2のポイントは、トルソ・バランスです。女性の身体の前からヒップまでを立体的に捉えたものをトルソ・バランスと呼びます。洋服を着た時に、美しく見えるボディラインは、正面からみた肩、バスト、ウエスト、ヒップの幅と高さ、側面のバスト、ウエスト、腹部、ヒップの厚みが加わったトルソ・バランスで決まります。これを構成する身体各ポイントを線で結んでみると、一人一人の身体の違いがはっきりとわかります。美しい身体的女性たちは、身体の大きさに関係なく、一定のバ

厚みのバランス

ウエストを1 (モジュール) とした場合
Fバスト=1.3 Gヒップ=1.3
分質中のくびれ=1/3
①いちはん突出している部分はバストである

横幅のバランス

ウエストを1 (モジュール) とした場合
A肩幅=1.6 B乳頭間隔=0.8
Cヒップ=1.4

位置のバランス

①バストの位置は肩とウエストの中間ぐらい
E B・W・Hの高さ比は1:1.2ぐらい

図2 トルソ・バランス

ランスを保っていることがわかりいただけると思います。このバランスを数値に置き換えたものが、トルソ・バランスです。

数値の一部をご紹介します。正面から見た時、ウエストを1とすると肩幅は1.6、乳頭間隔は0.8、つまりバストポイントの間隔は肩幅の1/2になります。また、バストの高さは、肩とウエストのほぼ中間の位置にあること、バスト、ウエスト、ヒップの高さ比は、1:1.2ぐらいが美しいバランスです。側面から見た時は、身体でもっとも前に出ているのは、バストであること、厚みについてはウエストを1とした時、バストとヒップはそれぞれ1.3が美しいバランスです。

3. バスト立体バランス(図3)

第3のポイントは、バストの立体バランスです。美しいバストは女性にとって永遠にあこがれの対象です。そのバストの形状を三次元計測装置で分析してみました。その結果、バストの底面の形状と流れ方が、バストの立体的な美しさを左右することがわかりました。底面の形状が、楕円から正円、バストの流れ方の大小から見たのがバスト立体バランスです。これに、多くの女性をプロットしてみると美しい身体的女性たちのバストは丸く脇流れしていないということがわかります。

図3 バストの立体バランス

4. ヒップ立体バランス(図4)

第4のポイントは、ヒップの立体バランスです。バストと同じように、女性の身体を特徴づけるのはヒップです。そのヒップの形状を三次元計測装置で分析してみると、ヒップの立体バランスを決定する要因は、ヒップ

底面の形状と上向き度でした。底面形状は台形傾向と長方形傾向、上がったヒップと下がり気味のヒップで見ます。これに多くの女性をプロットし、美しい身体の女性と比較してみると、ヒップはつんと上向きのほうが美しく、女性的な台形のヒップは、ある程度下を向いていても美しいということがわかりました。

図4 ヒップの立体バランス

5. 身体と体重のバランス(図5)

第5のポイントは、身長と体重のバランスです。美しい身体の基本は、身長と体重のほどよいバランスです。日本女性はなぜか痩せているほうが美しいと思こんでいるようですが、それは大きな間違いです。痩せすぎは美しくないばかりか、健康面からも決していいことではありません。また、体重だけを取り上げて、太っているとか痩せているとかを論じること無意味なことです。美しい身体的女性たちは、ある一定の身長と体重のバランスを保ちながら、身長の高い人から低い人まで幅広く存在しています。この分布をベースに、厚生省の標準体重を参考にしつつ、拒食症の権威の先生のご意見を伺って、美しく健康的なバランスゾーンを設定しました。

身長が高ければ、体重がかなり重くても美しい身体は存在します。洋服サイズの7号だけが美しいのではなく、11号でも13号でも美しいということがおわかりいただけたかと思います。

6. 高さのバランス(図6)

第6のポイントは、高さのバランスです。これは身長に対する頭の大ききで決まる頭身、ヒップ高、股下高で表されます。美しい身体的女性たちは、他の女性たちと

図5 身長と体重のバランス

比べて、ヒップの位置が高く、足が長く、顔が小さめでした。

このバランスを数値に置き換えると、美しい身体的女性は7.5頭身、ヒップ高は身長50%、股下高は身長47%となります。

現代における美しい身体とはどのようなものなのか、それを探った結果が6つのポイントから構成されたゴー

図6 高さのバランス

ルデンカノンです。日本女性の身体の美しさは多様化し、これまでのようにひとつの基準で表すことはできません。

ほとんどの女性は自分の美しさに気づいていない

では、ゴールデンカノンを満たしている女性は、どのくらいいるのでしょうか。すべてを満たしている人は5%以下、逆に全てを満たさない人も5%以下です。私たちが選び出した美しい身体 of 女性たちも、決して全てを満たしているわけではありません。さらに注目すべきことは、その女性たちのなかで、自分の美しさを自覚している人はわずか14%、ほとんどの女性は自分の美しさに気

づいていないということです。つまり、多くの女性たちはまだまだ美しくなる可能性を秘めているのです。

美しい身体を実現する第1歩は、このゴールデンカノンの6つのポイントのうち自分はどれを満たし、どれが欠けているのかを把握すること、自分の身体を正しく知ることから始まります。誰にでも、美しさはあります。それがどこにあるのかをしっかりと知ることが、よりよい美しさへの第1歩なのです。ゴールデンカノンが、伸びやかに今を生きる女性たちのための、新しい美の指標となっていくことを私たちは望んでいます。

The International Symposium on New Frontier of Thermal Studies of Materials

主 催：東京工業大学応用セラミックス研究所

協 賛：(社)繊維学会 ほか

会 期：1998年10月26日(月)・27日(火)

会 場：東京工業大学長津田キャンパス総合研究館

〒226-8503 横浜市緑区長津田町4259

(東急田園都市線すずかけ台駅下車徒歩5分)

発表申込期限：1998年7月31日(金)

(Second Circular送付予定：1998年8月末)

英文Abstract提出期限：1998年9月30日(水)

Proceedings原稿提出期限：1998年10月20日(火)

参加申込事前予約期限：1998年9月30日(水)

参加費(アブストラクト、懇親会費等諸費用含む、〔 〕内は予約締切後の料金)：

一般10,000円 [12,000円]、学生5,000円 [6,000円]

申込および問合先：東京工業大学応用セラミックス研究所 阿竹 徹

〒226-8503 横浜市緑区長津田町4259 TEL：045-924-5343, FAX：045-924-5339

e-mail：sympo@thermo.rlem.titech.ac.jp

URL：http://thermo.rlem.titech.ac.jp/sympo/